KAWAI

株式会社河合楽器製作所
2026 年 3 月期（第 99 期）第 2 四半期決算説明会　質疑応答要旨

開催日：2025 年 11 月 13 日(木) 11:00～12:00
説明者：代表取締役社長 執行役員　河合 健太郎
注：本資料は決算説明会ご出席者からいただきました主な質問と回答をまとめたものですが、
　　回答の意図をより分かりやすくするため、加筆修正を行っております。

＜2026 年 3 月期第 2 四半期の業績・通期の業績について＞

Q1. 楽器減産の営業利益への影響について、当第 2 四半期の減産影響はマイナス 4 億円（前年同期は 13 億円）とのことですが、通期の生産見通しは？

A1. 前期は日本とインドネシアの工場において休業日を設定し減産を行いましたが、当期は休業日を設けず一日当たりの生産台数を減らして対応しています。当第 2 四半期までの生産台数は、アップライトピアノは前年並みですが、グランドピアノは 10%減産、電子ピアノは 5%減産し、在庫数量をコントロールしています。下期に入っても生産台数を絞り海外の販売子会社向け出荷も制限していますが、徐々に生産数量は回復させていく予定で、通期の生産台数は、アコースティックピアノ合計では前年並み、電子ピアノは前年をやや上回る見込みです。

Q2. 下期にかけての楽器販売状況について、地域別に教えて下さい。

A2. ＜日本＞
厳しい販売環境の中、日本国内販売は健闘しており、電子ピアノの新機種 CX を 9 月に投入したことによりクリスマス商戦も期待できます。アコースティックピアノに関しては 10 月開催の第 19 回ショパン国際ピアノコンクールで当社ピアノが多くのコンテスタントに選択されたこともあり、コンクール終了後、国内販売店への問い合わせや当社 WEB サイト・Shigeru Kawai 特設サイトへのアクセス数も急増しています。
＜北米＞
年内に新たに直営店 2 店舗の開設を予定しており、他にもディーラー開拓、EC 強化に継続的に取り組んでいます。第 2 四半期までの売上高は前年を下回っていますが、通期では前年比プラスを見通しています。
＜欧州＞
昨年電子ピアノの低額モデル ES60 が好調でしたが　他社との価格競争が厳しく在庫が増加しています。電子ピアノの新製品 CX の売れ行きは悪く無いので、営業利益率を向上させていきます。
＜中国＞
当上期の状況が下期も継続するとみており、普及価格帯のアップライトピアノは引き続き厳しい状況です。一方、Shigeru Kawai を中心とした日本製のグランドピアノについては音楽大学の入札

による販売が回復しつつあり、電子ピアノは趣味層に向けた販売を伸ばしていく計画です。

Q3. 素材加工事業、その他事業の見通しは？

A3. 素材加工のうち、とりわけ金属事業では半導体関連や自動車向けの受注が好調です。その他事業は、情報関連事業において医療機関向け IT 機器販売が好調で、素材加工事業・その他事業ともに通期見通しを上方修正いたしました。

Q4. 営業利益の水準について、コロナ禍での特需やその後の反動など、環境が業績に影響を与えていると思われますが、正常水準の営業利益はどの程度だと考えていますか？また、現状からどうやってその水準に到達させるのですか？

A4. ここ数年、環境の変化により営業利益は大きく変動しています（注：2024 年 3 月期 32 億円、2025 年 3 月期 3 億円、2026 年 3 月期見通し 15 億円）。まず目指すべき水準としては、当期からスタートした中期経営計画「KAWAI　十年の計」3 年目・2028 年 3 月期の営業利益目標 50 億円です。この目標に向け、トップライン（売上高）を伸ばし、生産も回復させることで、営業利益を向上させてまいります。そのために来年夏にインドネシアの電子ピアノ新工場を稼働させ、それを核として欧米でシェア拡大を図ります。アコースティックピアノについては、アップライトピアノの拡大は難しいですが、グランドピアノについては、第 19 回ショパン国際ピアノコンクールで数多く選ばれた実績もあり、今後まだまだ伸びしろがあると考えています。

＜株主還元について＞

Q5. 配当・株主還元の考え方をお聞かせ下さい。

A5. 足元の業績は厳しいですが累進配当の方針、総還元 50％以上の目標は今後も継続します。前期の配当・1 株当たり 95 円について当期も下げない方針です。

＜経営方針について＞

Q6. 河合健太郎社長が昨年 2 月に社長に就任して 1 年半以上が経過しましたが、社長としてどのような経営を行っていくのか、あらためてお聞かせ下さい。

A6. 社長就任後に国内外の様々な方々のお話を聞く中で、カワイの目指すべき方向が見えてきました。その想いを世界中の従業員と共有するため、本年 3 月に「KAWAI Philosophy」を制定しました。Mission「人生を、響かせる。」はカワイにしかできない楽器やサービスの提供を通じて人々の人生に寄り添う存在でありたいという想いを表しています。カワイの従業員がこれまで培ってきた製品・サービスのノウハウを、今後より一層海外に広げていきたいと考えています。また、PBR 一倍割れの状態が継続していますが、ROE を継続的に高めていくとともに、先般のショパンコンクールでも証明されたブランド価値を、今後は企業価値にもつなげていくために、株主・投資家の皆様に成長期待を持っていただけるような施策を進めてまいります。

本資料に記述されている当社の業績予想、将来予測などは、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、経済情勢、販売競争の激化、知的財産権に関するリスクなど、様々な外部要因・ 内部要因の変化により、実際の業績、成果はこれら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。